

第5学年2組 社会科学習指導案

授業日 平成28年7月8日(金) 4校時
授業者 附属新潟小学校 指導教諭 大矢 和憲
会場 5年2組教室

1 単元名 「あなたは賛成？反対？給食完全米飯化」

2 本単元の価値

本単元は、現在の日本の食料生産に関する諸問題や実生活の事実を関連付けて、一消費者として食料にどのようにかかわっていくのか考えを深めることを目指した単元である。本単元では、食育における「日本型食生活の推進」や「和食文化の継承」も意識し、米とのかかわりについて考えさせていく。現在、日本の食料生産に関して、食糧自給率の低さやTPP参加による影響への不安、生産者の減少と高齢化等、様々な問題が生じている。特に米については、欧米型の食生活の浸透や生活スタイルの多様性等の影響から日本人の「米離れ」が深刻化している。特に若者の「米離れ」が深刻化しており、最近農林水産省が実施した食生活の調査では、「20代男性の約2割が1ヵ月間米を食べなかった」という結果が報告された。1960年代から米の消費量が減少し続け、生産調整により米の生産量も減少の一途を辿っている。このほかに、米に関する諸問題として、生産者の減少と高齢化、外国米の流通による影響等が挙げられる。しかし、これらの問題は米の消費量が減少したままでは解決できない。日本の米の生産を持続させていくためにも、国全体で米の消費量を増やそうとすること（米にかかわる考え）が必要なのである。

そこで本単元では、米に関する諸問題と自分の実生活とをつなげて米の消費について考えさせていくために、「学校の給食を完全米飯化することに賛成か反対か」という論題で討論会を行う。前単元において、子どもは米に関する諸問題についての知識をもっている。そこに給食の完全米飯化という子どもの生活にとって身近な論題を設定して討論させることで、米に関する諸問題の解決と自分の実生活とをつなげて米の消費について考えを深めていくことができる。このように、自分の生活を見直し、改善しようとする態度は、家庭科で育むべき資質・能力にもつながる。また、討論するという学習形態をとることで、立場と意見、理由や根拠を明確にして表現するという国語の資質・能力を発揮させることができる。

さらに、二項対立で討論させることで、子どもはグループで意見と理由を考えたり（協働性の発揮）、逆の立場をより納得させようと表現方法を工夫して考えたり（ツール活用能力の発揮）することができる。

最後に、栄養教諭が「日本型食生活」についての学習を行うことで、子どもはさらに、食育の視点からも米にかかわる考えを深めることができる。

このように、社会科を中心に、国語や家庭科、食育における資質・能力を教科横断的・総合的に育むことができる単元である。

3 本単元で目指す姿

米に関する情報を関連付けて、米にかかわる考えを深める子ども

「やっぱりぼくは完全米飯給食に賛成です。理由は、ぼくたちがもっとごはんを食べることで日本の米の消費量が少しでも増えるし、そうすれば米の生産量も増えて、農家の人も儲かるので若い人も増えると思うからです。ごはんを食べることが日本のためになると思ったので、家でもたくさんごはんを食べるようにしたいと思いました」などと考える姿。

4 本単元で育む資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全6時間(18Q)

単元カード参照

6 指導の構想

子どもはこれまでに、「日本の米づくり」(社会)の単元で、米の消費量と生産量が減少していることや、生産者の減少と高齢化等、現在の日本の米に関する諸問題について学習している。しかし、これらの諸問題の解決に向けて、自分がどのようにかかわることができるかまでは考えていない。

また、「意見と理由を聞き取ろう」(国語)の単元で、考えを述べる際は、意見と理由を明確にして述べる必要があることを学習している。このとき、意見と理由を分かりやすく伝えるためには、写真や図等の資料を効果的に活用するとよいことを実際に試すことで実感的にとらえている(C0)。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

主食調査結果一覧表(資料1)と、完全米飯給食の提案を提示し、話し合いたいことを問う。

米に関する諸問題や実生活の事実を関連付けて、米のへのかかわり方について討論するための論題(学習問題)を設定させるための働き掛けである。

まず、子どもに事前に行った「(1週間の)主食調査結果一覧表(資料1)」を提示する。子どもは、自分の実生活の事実と学級全体の事実を比較し、結果に共感したり意外性を感じたりする。

次に、「給食の主食を毎日ごはんにしようと思う」という栄養教諭の提案を提示する。当校では現在、月に2回ほどパンやめんが主食の日があるが、それを無くし、完全米飯給食にしようという提案である。子どもは、この提案に対して「賛成」または「反対」の反応をする。このような子どもに、これからみんなで話し合いたいことを問う。子どもは互いの考えのずれを感じ、「給食の主食を毎日ごはんにすること(完全米飯給食)に賛成か反対か」という論題(学習問題)を設定する。論題を設定した子どもに、現在の自分の立場を選択させ、初発の考えをワークシートに記述させる。子どもは賛成か反対か立場を選択し、自分の考えを発表したいと考える。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け2

より分かりやすく考えを伝えるために何を使うとよさそうか、どのように学習を進めるかと、その理由を問う。

子どもがより説得力のある討論に向かうことができるようにするため。また、子どもが様々な資質・能力を発揮して学習しようと思通しをもつことができるようにするための働き掛けである。

まず、子どもにワークシートに書いた考えを発表させる。このとき、「賛成」「反対」双方の立場の考えを発表させる。子どもはそれぞれに考えを発表するが、根拠が明確でなかったり、誰が「賛成」で誰が「反対」の立場なのか分からなかったりする状態である。

そこで、より分かりやすく考えを伝えるために何を使うとよさそうかと、その理由を問う。子どもは、「より考えを分かってもらえるから、写真やグラフなどの資料を使って説明するといい。(国語①知識や技能)」「米を食べることが大事だと伝えたいから、米の消費量と生産量のグラフを使って説明するといい(社会①知識や技能)」等、根拠を明確にして考えを伝える見通しをもつ。

このとき、どのような資料が使いそうかを詳しく問う。子どもは、米に関する諸問題の資料(米の消費量と生産量のグラフ、生産調整の資料、農業人口のグラフ等)と、「主食調査結果一覧表(資料1)」が使いそうだと考える。これらは、社会的な事実(米に関する諸問題)と自分たちの実生活の事実である。また、一消費者として実社会の問題とのかかわりを考えるために必要な情報である。これらの情報を関連付けて考えることが、将来の主権者を育てる社会科として目指す子どもの姿につながる。

また、何を使うとよさそうか問うことで、子どもは「情報をつなげて説明できるから、ロイロノートやコア・マトリクスを使って考えや資料をまとめて説明したい(②ツール活用能力、社会・国語③見方や考え方)」等、自分の考えをまとめて伝えるために有効な手段についての見通しをもつ。

さらに、どのように学習を進めるかと、その理由を問う。子どもは、「考えを強くできるから、賛成と反対の人でグループになって意見を考えたい(協働性)」「賛成と反対のグループで討論をしたい」等、これからの学習計画を立てる。

ここでもう一度完全米飯給食に賛成か反対か、立場を確認し、次のように働き掛ける。

働き掛け3

子どもが必要とするツールを与え、グループで意見を考えさせる。

子どもが様々な資質・能力を発揮し、情報を関連付けて考えをまとめることができるようにするための働き掛けである。立場ごとのグループに分かれ、ロイロノートやコア・マトリクスを使って考えをまとめようとしている子どもに、必要とするツールを与え、グループで意見を考えさせる。

子どもは、ロイロノートやコア・マトリクスを使うこと(②ツール活用能力の発揮)を通して、米に関する情報(米に関する諸問題や自分たちの実生活の事実)を関連付けて意見を考えていく。ロイロノートやコア・マトリクスは、必然的に関連付けが促されるツールだからである。また、考えをまとめていく段階で、子どもは、社会①知識や技能、③見方や考え方、国語①知識や技能、③見方や考え方、家庭科④態度等、様々な資質・能力を発揮する。

さらにこの場面では、「考える言葉」をたくさん使うように指示する。「考える言葉」とは、子どもが普段考える際に使う言葉であり、これらを意識させることで思考が活性化されることを狙っている。ただし「考える言葉」は、毎日の学習で意識させていること(学級の文化)であるため、働

き掛けとしては取り上げない。

働き掛け4
学級の討論会を行い、最終的な自分の考えと学習を通して思ったことを問い、「考え方のコツ」とともにワークシートに記述させる。

一消費者として、これから自分が米にどのようにかかわっていくのか考えることができるようになるため。また、発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。討論会の準備ができたところで学級の討論会を行う。この場面では国語の③見方や考え方④態度を発揮させるために、次のような順序で進めていく。

- ①「賛成」グループの主張 ②「反対」グループの主張 ③作戦タイム
- ④各グループに対する質問と返答 ⑤最終作戦タイム ⑥「賛成」グループの最終主張
- ⑦「反対」グループの最終主張

子どもは、**国語③見方や考え方、④態度**を発揮して討論していく。また、各グループに対する質問と返答、最終作戦タイムを設定することで、自分たちの説明で足りなかったことに気づき、より相手を納得させるために、**他の情報を関連付けたり、自分たちの生活と関連付けたりして主張する（社会③見方や考え方、家庭科④態度）**。

討論会后、最終的な自分の考えと学習を通して思ったことを問い、「考え方のコツ」とともにワークシートに記述させる。これまで子どもはグループで学習を進めてきた。最終的な自分の考えと学習を通して思ったことを説明させることで、子どもは自分自身で米に関する情報を再構成し、**これから自分が米にどのようにかかわっていくのか考える（社会④態度）**。こうして「やっぱりぼくは完全米飯給食に賛成です。理由は、ぼくたちがもっとごはんを食べることで日本の米の消費量が少しでも増えるし、そうすれば米の生産量も増えて、農家の人も儲かるので若い人も増えると思うからです。ごはんを食べることが日本のためになると思ったので、家でもたくさんごはんを食べるようにしたいと思いました」などと、**米に関する情報を関連付けて、米にかかわる考えを深める子ども（Cn）**になる（**国・社①③ 社・家・食④**）。

また、このとき「考え方のコツ」を同時に記述させることで、子どもは自分の学習を振り返り、自分が発揮した資質・能力とその結果どのようにできたのかを自覚する。

7 本時の構想（本時 1 / 6 時間）

(1) ねらい

社会・国語①知識や技能、②ツール活用能力、③見方や考え方、家庭科の④態度等を発揮して、米に関する情報を関連付け、グループで論題（完全米飯給食にすることに賛成か反対か）に対する意見を考えることができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 日本の米づくりと、米を生産している人々の工夫や努力について学習している。
- 日本の米の消費量と生産量が減少していること。生産調整が行われ、転作田や耕作放棄地が増えていること。生産者が減少し、高齢化が進んでいること。安い輸入米が増え、日本の米の消費量と生産量が減少することが心配されていること等、日本の米に関する諸問題について学習している。
- 米に関する諸問題の解決に向けて、自分がどのようにかかわることができるかまでは考えていない。
- 給食以外の食事で食べた主食を1週間調査している。（ここまで社会①知識や技能）
- 写真や統計資料等を活用して考えを説明することができる。（社会・国語①知識や技能）
- 考えを述べる際に、意見と理由を明確にして述べる必要があることを学習している（国語①知識や技能）。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 「主食調査結果一覧表（資料1）」と完全米飯給食の提案を提示し、これから話したいことを問う。
 - ・説明「みんなが1週間調べた主食調査の結果を五十嵐先生がまとめてくれました。みんなで見てみましょう」
 - ・説明「ここで五十嵐先生（栄養教諭）からの提案があります」
※プレゼンテーションで提示する。

- ・説明「今、附属新潟小学校の給食では、毎月1回か2回パンかめんの日があります。それをこれから無くして、給食の主食を毎日ごはんにしようと思うのですが、5年2組の皆さんはどう思いますか」
 - ※子どもの「賛成」「反対」の反応を拾う。
- ・発問「これからみんなで話し合いたいことはどんなことですか」
- ・説明「これからみんなで話し合うことはこれでいいですか。それではこれからみんなで考える学習問題にしましょう」
- ・指示「賛成の人は手を挙げましょう。反対の人は手を挙げましょう」
- ・指示「これからワークシートを配るので、今の自分の立場と考えをワークシートに書きましょう」
 - ※「賛成」または「反対」の立場を選択し、初発の考えをワークシートに記述できた子どもを問いをもった姿とする。

このようになり（C1）

- 討論するための論題（学習問題）を設定し、初発の考えをもつ。
 - ・やっぱりごはんが多いな。 ・パンも意外と多いな。
 - ・どんな提案だろうか。
 - ・えーっ！？嫌だ。反対。 ・あっそれいいね。賛成。
 - ・給食の主食を毎日ごはんにするかどうかです。
 - ・給食の主食を毎日ごはんにすることに賛成か反対かです（学習問題）。
 - ・賛成です。 ・反対です。
 - ・ぼくは賛成です。そうすればみんながごはんを食べる回数が増えるからです。
 - ・わたしは反対です。毎日ごはんだと飽きるし、なおさら食べたくなくなるからです。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- より分かりやすく考えを伝えるために何を使うとよさそうかと、その理由を問う。
 - ・指示「それでは考えを発表しましょう」
 - ・発問「より分かりやすく考えを伝えるために何を使うとよさそうですか」「それはなぜですか」
 - ・発問「資料の話が出ましたが、他にどのような資料が使いそうですか」
 - ※資料についての考えが出たところで発問する。
- どのように学習を進めるかと、そうしたい理由を問う。
 - ・発問「では、これからどのように学習を進めたらいいですか」「それはなぜですか」
 - ※補助発問「なるほどね。みんなは○○さんの考えが分かりましたか？納得ですか？」
「まだこうすればいいということはありませんか」
 - ※学習方法や考え方、そう考えた理由をできるだけ具体的に話させ、学習の進め方を板書する。
 - ・説明「それではこれからこのように学習を進めていきましょう」
 - ・指示「では、もう一度立場を聞いてみます。賛成の立場の人は手を挙げましょう。」「反対の立場の人は手を挙げましょう」
 - ※「賛成」と「反対」でグループをつくる。人数が多い場合は、3～4人の小グループを複数つくる。

このようになり（C2）

- 根拠を明確にして考えを伝える見通しと、自分の考えをまとめて伝えるために有効な手段についての見通しをもつ。
 - ・ぼくは賛成です。そうすればみんながごはんを食べる回数が増えるからです。
 - ・写真やグラフなどの資料を使って説明すると思います。理由は、その方が考えた理由がはっきりするからです（国語①）。
 - ・米の消費量と生産量のグラフを使うといいと思います。理由は、米を食べることが大事だと伝わるからです（社会①）。
 - ・農業人口のグラフや生産調整の表も使えると思います。理由は、農家の人が減っていることや減反が多いことも問題だからです（社会①）。
 - ・主食調査一覧表（資料1）も使えると思います。理由は、実際に自分たちがパンもたくさん食べていたりすることが分かるからです（社会③家庭科④）。
 - ・ロイロノートを使うといいと思います。理由は、情報や考えをつなげて説明できるからです。
 - ・コア・マトリクスを使うといいと思います。理由は考えをまとめて説明できるからです。

- (②ツール活用能力, 社会・国語③見方や考え方)
- これからの学習計画を立てる
- ・「賛成」と「反対」でグループになって相談して意見を考えたらいいと思います。そうすれば、考えが強くなるからです(協働性)。
- ・「賛成」対「反対」で討論をして、クラスの考えを決めたらいいと思います。
- ・「賛成」の人 (挙手する)
- ・「反対」の人 (挙手する)

- このように働き掛けると【働き掛け3】**
- 子どもが必要とするツールを与え、グループで意見を考えさせる。
 - ・指示「それでは、まずグループで何を使うか相談して決めてから、意見を考えるために必要な物(ツール)を取りに来てください」
 - ・指示「それから、『考える言葉』をたくさん使いましょう。それでは各グループで意見を考えましょう」
 - ※ipadやコア・マトリクス等、必要な道具を与える。
 - ※補足説明：「比べたりつなげたりしたときは、矢印を書いていきましょう。また、矢印の意味を『考える言葉』で書きましょう」
 - ※補助発問：机間巡視をして、「なぜそのように考えたのか」「これらのことから、どのようなことが言えそうか」と問う。
 - ※この場面は、もう1時間(3Q45分)続ける。本時では、3Q45分の時間で区切る。

- このようになり (C3)**
- 様々な資質・能力を発揮して、グループで情報を関連付けて論題に対する考えをまとめる。
 - ※この場面では、各グループによって様々な資質・能力が発揮されることが予想される。よって、発揮されることが想定される資質・能力を示す。そして、どのような資質・能力が発揮されているかを子どもの姿から検証することとする。
 - ・主に日本の米に関する諸問題の情報を比較・関連付け・総合して考えをまとめる(社会①③)。
 - ・写真やグラフ等の基礎的資料を使って考えをまとめる(社会①)。
 - ・順序や理由を表す言葉を使って、意見と理由を明確にして考えをまとめる(国語①)。
 - ・考えの理由や根拠、意図を明確にして表現する(国語③)。
 - ・事実と意見を区別して表現したり理解・解釈したりする(国語③)。
 - ・ロイロノートかコア・マトリクスを使って考えをまとめる(社会・国語②ツール活用能力)。
 - ・自分たちの食生活の情報(主に資料1から言えること)と関連付けて考える(社会③家庭科④)。
 - ・生産と消費、生産者と消費者等、事象や立場の相互関係に着目して考える(社会③)。
 - ・原因と結果の関係に着目して考える(社会③)。
- 【賛成派例】**
- ・完全米飯給食に賛成です。理由は、毎日ごはんによれば米の消費量が増える。そうすると米の生産量も増えて、農家の人が儲かるから。そうすれば若い農家の人も増えて、これからの日本のためになるからです。
- 【反対派例】**
- ・完全米飯給食に反対です。理由は、給食がいつもごはんだと逆に家ではごはんを食べたくなくなって、米の消費量が減ると思うから。それでは結局生産量も増えないし、儲からないなら若い農家の人も増えないと思うからです。

- **本時 C3の途中まで** -----
- このように働き掛けると【働き掛け4】**
- 討論会を行う。
 - ・指示「それではこれから討論会を始めましょう」「まずは、賛成グループの考えを発表してください」
 - ・指示「次は、反対グループの考えを発表してください。」
 - ・説明「これから作戦タイムを5分間とります。相手のグループに対する質問や意見を考えましょう」
 - ・指示「それでは、まず賛成グループへの質問や意見を発表しましょう」「賛成グループの人は、質問や意見に答えてください」
 - ・指示「次は反対グループへの質問や意見を発表しましょう」「反対グループの人は、質問や意見に答えてください」

- ・指示「それではこれから、最終作戦タイムを5分間とります。各グループで最後の考えを相談しましょう」
- ・指示「まずは、賛成グループの考えを発表してください」
- ・指示「次は、反対グループの考えを発表してください」
- 最終的な自分の考えと学習を通して思ったことを問い、「考え方のコツ」とともにワークシートに記述させる。
- ・指示「さあ、これまで討論会を行って、給食を毎日ごはんにすることに賛成か反対かを考えてきましたね」
- ・発問「みんなは最終的に、給食を毎日ごはんにすることについてどう考えますか？学習を通してどのような思いをもちましたか？」
- ・指示「最終的な自分の考えと学習を通して思ったこと、「考え方のコツ」をワークシートに書きましょう」
- ・指示「考える言葉を使って書きましょう」
- ※初発の考えが書いてあるワークシートを配付する。

- このようになる (Cn)**
- 「賛成」と「反対」の立場に分かれて、論題について討論する。
 - ※この場面では、討論する中で様々な資質・能力が発揮されることが予想される。よって、発揮されることが想定される資質・能力を示す。そして、どのような資質・能力が発揮されているかを子どもの姿から検証することとする。
 - ・主に日本の米に関する諸問題の情報を比較・関連付け・総合して考えを伝える(社会①③)。
 - ・写真やグラフ等の基礎的資料を提示して考えを伝える(社会①)。
 - ・順序や理由を表す言葉を使って、意見と理由を明確にして考えを伝える(国語①)。
 - ・考えの理由や根拠、意図を明確にして表現する(国語③)。
 - ・事実と意見を区別して表現したり理解・解釈したりする(国語③)。
 - ・ロイロノートかコア・マトリクスを使って考えを伝える(社会・国語②ツール活用能力)。
 - ・自分たちの食生活の情報(主に資料1から言えること)と関連付けて考える(社会③家庭科④)。
 - ・生産と消費、生産者と消費者等、事象や立場の相互関係に着目して考える(社会③)。
 - ・原因と結果の関係に着目して考える(社会③)。
- 最終的な自分の考えと学習を通して思ったこと、「考え方のコツ」をワークシートに記述する。
 - ・やっぱりぼくは完全米飯給食に賛成です。理由は、ぼくたちがもっとごはんを食べることで日本の米の消費量が少しでも増えるし、そうすれば米の生産量も増えて、農家の人も儲かるので若い人も増えると思うからです。ごはんを食べることが日本のためになると思ったので、家でもたくさんごはんを食べるようにしたいと思いました(国・社①③ 社・家・食④)。
 - ・やっぱりぼくは完全米飯給食に反対です。理由は、給食が毎日ごはんとかえって家ではごはん以外のものを食べたくなくなるからです。そうすると、結局米の消費量を減らすことにつながるし、生産量も減って農家の人も増えないと思うからです。家ではごはんを食べていない日もあったので、これからはできるだけごはんを食べるようにしたいと思いました(国・社①③ 社・家・食④)。

- 8 検証**
- (1) 検証すること**
- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
 - ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
 - ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。
- (2) 検証の方法**
- ① 働き掛け4を受けて、.....のように、米に関する情報(米に関する諸問題や自分たちの実生活の事実)を関連付け、立場と理由を明確にして考えを説明しているかどうか。.....のように、自分が米にどのように関わっていくのか記述しているかどうかを、ワークシートの記述から検証する。
 - ② 働き掛け2と3を受けて、.....のような資質・能力を発揮しているかどうか。.....のように米に関する情報を関連付けて考えているかどうかを、発言や活動の様子、考えを表現しているツールから検証する。
 - ③ ワークシートの「考えるコツ」の記述から検証する。